

SYMPOSIUM

四国5大学連携による知のプラットフォーム形成事業

参加
無料

公開シンポジウム

日
時

平成25年10月4日（金）

13:00～16:20

会場

高知会館 公立学校共済組合宿泊所
高知市本町五丁目 6-42（3階 飛鳥の間）



対象

教職員・学生・一般

※高知大学大学院博士課程の在学学生はDCセミナーの対象となります



5大学連携協定調印式



第1回シンポジウム
（平成25年5月：愛媛大学）

テーマ

海洋資源の有効利用と四国5大学
連携海洋系教育プログラムの構築

- 開会挨拶 脇口 宏 高知大学長
- 「新しい養殖魚（柚子ぶり）の開発～天然魚とは異なる美味しさを求めて～」 深田 陽久 高知大学教育研究部自然科学系 農学部門准教授
- 「音波で海底資源を探す」 徳山 英一 高知大学海洋コア総合研究センター長
- 「仁淀川栄養塩物語～山と海を結ぶ川の役割」 「四国5大学連携による総合的海洋管理教育構想」 深見 公雄 高知大学理事（教育担当）
- 「沿岸域総合管理教育への期待－海を活かしたまちづくりに向けて－」 古川 恵太 海洋政策研究財団海洋グループ主任研究員

情報交換会♪

【問い合わせ先】

高知大学法人企画課 〒780-8520 高知市曙町二丁目 5-1
TEL：088-844-8758 FAX：088-844-8887
E-Mail：hj03@kochi-u.ac.jp

start

13:00

13:10

14:00

14:50

15:40

16:20

18:00

公開シンポジウム講演者紹介

深田 陽久 高知大学教育研究部自然科学系農学部門准教授, 博士(水産学)

(講演題目)

「新しい養殖魚(柚子ぶり)の開発～天然魚とは異なる美味しさを求めて～」

(講演要旨)

魚にはウシ、豚、鶏などは異なり、天然と養殖がある。そのため、養殖魚の品質は常に天然魚と比較されてきた。演者らは養殖でしかできない魚を開発することで、この構図から脱げだしたいと考え、新たな養殖魚飼料の開発をした。その結果、飼料に高知特産の柚子を用いることで養殖ブリの鮮度維持だけでなく、魚の身に「柚子の香り」を付加させることに成功し、「柚子鱈王」「土佐ゆずぶり」として販売にまで至った。本講演ではこの取組を紹介する。

(略歴)

1999年に北海道大学大学院にて博士(水産学)の学位を取得。その後日本学術振興会特別研究員、日本学術振興会海外特別研究員(University of Washington, NWFSC, NOAA)を経て、2004年から国立大学法人高知大学に在籍、現在に至る。

(専門分野)

魚類栄養生理学



徳山 英一 高知大学海洋コア総合研究センター長(特任教授), 理学博士

(講演題目)

「音波で海底資源を探る」

(講演要旨)

海底下に埋積された資源を高解像(垂直方向で数十cm)でイメージング可能な新探査システム(接地型高周波音源を用いた高解像度パーティカルサイズミミックケーブル方式反射法地震探査システム)を、文部科学省の「海洋資源利用促進技術開発プログラム海洋鉱物資源探査技術高度化」のもと、現在開発中。今年の8月に熱水鉱床の存在が知られている沖縄トラフ伊是名海穴で実証試験を実施した。その成果の一端を紹介する。

(略歴)

東京大学大学院理学系研究科地質学専攻博士課程を経て、1975年に東京大学海洋研究所助手。2000年同教授、2012年東京大学大気海洋研究所定年退職後、同年4月から高知大学海洋コア総合研究センター長として現在に至る。

(専門分野)

海洋底地球科学



深見 公雄 国立大学法人高知大学理事(教育担当)・副学長, 農学博士

(講演題目その1)

「仁淀川栄養塩物語～山と海を結ぶ川の役割～」

(講演要旨)

“森は海の恋人”といわれて久しいが、それを科学的に示した研究例は少ない。本講演では、文部科学省特別教育研究経費により実施された「黒潮流域圏総合科学の創成」の一部として得られた高知県仁淀川での研究結果を中心に、雨水により森林土壌から河川に供給される栄養塩量および河川水中の微細藻類によるその消費、さらには河口域に達した栄養塩が沿岸海域の基礎生産に果たす役割について述べる。

(講演題目その2)

「四国5大学連携による総合的海洋管理教育構想」

(講演要旨)

豊かな資源が得られる海洋を、陸域と海域を一体的にとらえて総合的かつ適切に管理し、永く将来にわたって持続的に利用していくためには、海洋に関する様々な知識や技術を持ち、総合的な視点から諸課題に対応できる人材育成が急務である。四国地域の各国立大学ではこれまで様々な海洋に関する教育研究が実施されている。そこで、これらの大学が連携して実施する総合的海洋管理教育の推進構想について紹介する。

(略歴)

昭和29年生まれ。京都生まれの京都市育ち。東京大学大学院農学系研究科(水産学)修了。京都大学助手を経て、高知大学には平成元年に赴任。助教授・教授を経て、平成20年より理事(教育担当)・副学長。高校生の頃に溪流釣りを趣味にしていたことから、大学では魚類を研究したくて水産学科に入学したものの、授業で聴いた微生物のおもしろさにひかれ、学部途中で簡単に方向転換。現在は、食べる魚(すなわち酒の肴)以外は全く魚類には興味が無い。

(専門分野)

海洋微生物生態学、海洋環境保全学。水圏微生物の役割やそれを利用した環境保全、悪化した環境の修復と改善など。



古川 恵太 海洋政策研究財団海洋グループ主任研究員, 博士(工学)

(講演題目)

「沿岸域総合管理教育への期待－海を活かしたまちづくりに向けて－」

(講演要旨)

海洋基本法(2007年)や海洋基本計画(2013年)では「沿岸域の総合的管理」が地域主体の地域振興を進める大きな原動力となることが記載されている。その推進には、海洋・水産・環境などの核となる専門的知識とともに、学際的・分野横断的な知識を持った人材の活躍が不可欠である。高知大学をはじめとする四国国立大学連携の「知のプラットフォーム形成事業」は、そうした沿岸域総合管理教育の先端事業として、大きな期待が掛けられている。

(略歴)

昭和38年生まれ。早稲田大学大学院建設工学科(土木)修了後、運輸省港湾技術研究所に配属、改組、豪州海洋科学研究所との共同研究のための在外研究などを経て、平成24年3月に国土交通省国土技術政策総合研究所沿岸海洋・防災研究部沿岸海洋新技術研究官を退職。4月から海洋政策研究財団海洋グループ主任研究員。横浜国立大学統合的海洋教育・研究センター客員教授を兼務。

(専門分野)

土木工学、水理学、沿岸域の生態系、海辺の自然再生のための調査・計画・管理

